

# たんぱく質を、もっと自由に。

事業戦略とサステナビリティ戦略を融合し、  
企業価値の最大化に向けて始動しました。

人口変動やライフスタイルの多様化、環境問題の深刻化など、世界は大きな変革期を迎えています。たとえば、世界の人口は2030年には85億人に達すると予測されており、食糧危機が懸念されています。一方で、日本国内の人口は減少期を迎えており、少子高齢化やライフスタイルの多様化による食需要の変化や食ニーズの多様化が見て取れます。

こうした変化の中でも、ニッポンハムグループが企業理念のテーマとして掲げている「食べる喜び」を届ける責任と使命は変わりません。この企業理念の実現を追求するうえでのマイルストーンとして、2021年3月に2030年のありたい姿を示したビジョン「Vision2030」「たんぱく質を、もっと自由に。」を発表しました。あわせて、ビジョン実現に向けて優先的に取り組むべき社会課題「5つのマテリアリティ（重要課題）」も特定し直しました。2021年は社会と当社グループの持続的な発展に向けて新たなスタートを切った年といえます。

## 「Vision2030」に込めた想い

「たんぱく質を、もっと自由に。」という言葉は、「日本最大級のたんぱく質供給グループ」としての意志表明です。当社グループが肉・魚・乳製品などを通して提供してきたたんぱく質を、これからは環境や社会に配慮しながら安定供給するとともに、多様な食の選択肢を提供していくという想いを込めました。

たんぱく質は生きるために欠かせない栄養素ですが、これから先、世界的な人口増加による需要増加に対して供給が追いつかなくなるといわれています。また、動物性たんぱく質の最大の供給源である畜産には大量の穀物が必要であることや、世界の温室効果ガス排出量の約14.5%は畜産由来といわれるなど、畜産業が環境負荷の面でも乗り越えなければならない課題があることも認識

代表取締役社長  
畑 佳秀

しています。こうした背景もあり、常識にとらわれない自由な発想で、生きる力となるたんぱく質の可能性を広げ、多様なたんぱく質摂取の選択肢を創造・提供していきたいと考えています。現在進めている「植物由来のたんぱく質商品の拡充」「新たな代替たんぱく質の探求」はその一環です。

また、ライフスタイルに応じて一人ひとりが自由に食を楽しめるよう、多様な食シーンの創出にも自由な発想で挑戦していきます。たとえば、食物アレルギーをお持ちの方が安心して食べたいものを食べ、栄養改善や食への満足にも貢献できるように選択肢を増やしていくこともそうですし、認知機能低下の改善について特許を取得した成分「イミダゾールジペプチド」を活用した商品開発を進めることもまた、私たちの挑戦の一つです。

## 事業戦略と一体化した新たなマテリアリティ

新しく特定したマテリアリティは5つあり、「中期経営計画2023・2026」において事業戦略と結び付け、その一つひとつについて施策と指標を設定しています。それに基づいて、各組織がこの4月から施策を推進しています。

「持続可能な地球環境への貢献」では、2030年をゴールとする「中長期環境目標」も新たに策定しました。気候変動への対応、食品ロスや廃プラスチック類も含めた廃棄物の抑制、水資源への対応を重点課題とし、定量目標を定めて達成を目指します。特に温室効果ガス削減については、日本政府が掲げる削減目標を踏まえて「2030年度までに国内グループ拠点における化石燃料由来CO<sub>2</sub>排出量を2013年度比46%以上削減」することとしました。意欲的な目標ではありますが、省エネ設備や技術の導入など積極的な環境投資を実行していきます。また、当社グループは2020年6月に気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同するとともに、「TCFDコンソーシアム」へ加入しており、シナリオ分析を2021年度中には終えて、その分析に基づいた施策を事業計画に織り込んでいきたいと考えています。

「食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄」では、スポーツを通じた地域社会との共創、地域の文化的活動への参画、食育をはじめとする次世代の育成支援などを進めるとともに、地域社会と対話し課題解決に努めていきます。

「従業員の成長と多様性の尊重」は、中期経営計画の達成やビジョンの実現を目指すうえでの

原動力となります。人事制度改革、ワークスタイル改革、オフィス改革を進め、従業員一人ひとりが持てる力を発揮し、挑戦し、より働き甲斐を感じられるよう取り組んでいきます。

また、こうしたマテリアリティの実践を通してSDGs(持続可能な開発目標)の達成にも貢献していきます。



## ステークホルダーの皆様へ

当社グループは、食品企業として安全・安心な商品やサービスを安定的に供給するという社会的使命を担っています。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、今後もグループ従業員の安全確保と健康維持を第一にしながら、供給責任を果たしていきます。

また食の分野では、外食や中食、調理食品や加工食品の利用、テイクアウトや新しいデリバリーサービス、eコマースの活用といった消費者の購入のあり方も多様化していれば、健康志向、簡便性、長期保存、家庭でつくる楽しさを満たす商品など、食品への期待も多様化しています。「たんぱく質を、もっと自由に。」を実現するために、食品にITを活用する「フードテック」にも対応しながら、新たな食の潮流に挑戦していきます。

私は、経営理念の一つである「高度に機能的な有機体をめざす」ことを最も大切にしています。これは、多様性に富む人財がそれぞれ最大限に能力を発揮し、機能的に結び付いた組織の状態を表しています。「Vision2030」のもと、こうした組織のあり方を追求することで、さまざまな社会・環境課題を解決でき、グループの成長・発展につながっていくと確信しています。ステークホルダーの皆様から愛され、尊敬され、選ばれる企業グループとなれるよう、一丸となって経営にあたる所存です。ぜひ、2030年に向かって成長発展するニッポンハムグループにご期待ください。

代表取締役社長

畑 佳秀